留学生通信

日本で研究に打ち込める幸せ

My Happiness for Studying in Japan

アンサルラ　ラウイ
Ansarullah lawi
■1998 インドネシア　マカサラ技術大学卒業
1999 チャバング・ケンダリ電力会社勤務
2005 九州大学大学院　工学府　知能機械システム専攻　博士前期課程入学
現在　同上　博士後期課程　3 年
■主として行っている研究
・深屈曲対応型人工関節の運動形態および接触応力に関する実験的研究
■通学先
九州大学大学院工学府知能機械システム専攻博士課程 3 年
（〒819-0395　福岡市西区元岡 744）

1 母国インドネシアについて

私の母国インドネシアは島国としては世界最大であり，島の数はおよそ 18 000，人口は約 2 億 2800 万人，中国，インド，アメリカに次ぐ世界第 4 位の国である（**図 1**）．国土の半分以上が森林に覆われている一方で，島国としての生態系を強く残している．国民の大半が農業に従事していること，天然資源が豊富なことなどは知られているが，サービス業と工業で GDP の 86%を占めていることはあまり知られていないようである．インドネシアは世界最大のイスラム教国家である，このほかの四大宗教（カトリック，プロテスタント，仏教，ヒンズー教）の信徒も数多く，民族的にはおよそ 300 のグループが共存している．このため，“Bhinneka Tunggal Ika”（多様性における結束）が国のモットーになっている．インドネシアの教育体制は日本と大きな違いはなく，初等（6 年），中等（3 年）の義務教育の後，希望者は高等学校，専門学校，大学へと進学するシステムである．ただし，初等教育（小学校）にも早期修了制度があり，優秀な生徒は 5 年で卒業できる．

2 雪が降る日本での勉学を夢見て

以下の二つの理由で日本への留学は子どもの頃からの私の夢であった．その一つは，言うまでもなく，世界に誇る技術力と経済力を有する日本への憧れであり，もう一つは熱帯の国に生まれ育った私には想像できない「白銀の世界」や四季の移り変わりを実感してみたいと思ったことである．

大学卒業年が父の定年退職年に当たり，経済的にもこれ以上勉学を続けることが困難になった私は，研究者の道をあきらめ，就職を決意した．専攻が機械工学であったにもかかわらず，入社できたのは半国営の電力会社であった．

すでに日本へ留学していた兄から奨学生に採用されたとの知らせを受けたのは，就職後，数年経過した頃のことである．「採択率が極めて低い母国の奨学金を当てにするより，留学してから日本政府の奨学制度に応募したほうがよい」が兄の口癖であった．兄からの知らせを聞いて私の心が再び揺らぎ始めた．入学に多額の資金が必要なことや日本の物価高は知っていたが，思いきって退職し，これまで蓄えた貯金をはたいて日本への留学を決意した．

その後の私は幸運に恵まれた．第一に，私は九州大学から研究生入学の許

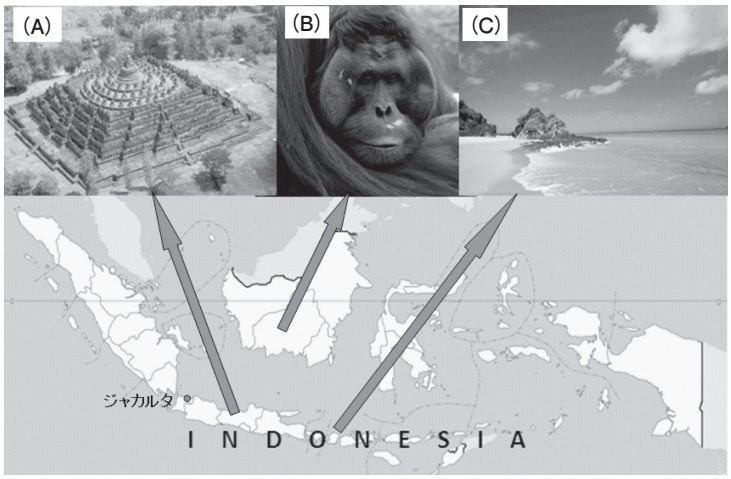

図1　インドネシア地図
（A）国内最大の仏教寺院ボロヴドル寺院，（B）世界中でインドネシアのみを生息地とするオラウータン（森の住人）（C）日本でも有名なバリ島のビーチ

図2　第5回インドネシア・チャリテイ・デイ

可をもらうことができた．4カ月の研究生生活の後，私は九州大学大学院の修士課程入試に合格でき，その数カ月後には民間財団の奨学生に採用された．博士課程進学後は日本政府の国費留学生に採用され今日に及んでいる．まるで，幸運の女神が常に寄り添っているようであるが，その中でも最大の幸運は，今の指導教授に巡り合えたことであった．情熱をもって私たちを指導してくれる教授は，非常に親切で，とても話しやすい人格の持ち主であり，研究が進まず苦しんでいる私たちにいつも救いの手を差し伸べてくれる．教授は私がこれまでに出会った教師の中で最高の指導者であると思っている．現在，私は，人工関節のバイオメカニクスに関する研究で学位論文をまとめつつあり，実験やゼミでは研究室（図形情報学研究室）の皆さんにも大変お世話になっている．

私が住んでいる福岡は大都市でありながら，緑豊かで，清潔な街である．雪があまり降らないのに冬がやたら寒いのは“想定外”であったが……．この福岡にはPPI（Persatuan Pelajar Indonesia：インドネシア学生交流会）と呼ばれる団体組織があり，私もこの団体メンバーの一員として，さまざまなボランティア活動に参加している．この団体が毎年行っている最大のイベントがIndonesia Charity Dayである（**図2**）．この催しは“Association for Saving Indonesian Children Education”（インドネシアの子どもの教育を救う会）との共催で行われ，催しで得た収益の一部はBadan Semi Otonomi Beasiswa（半独立法人の奨学基金組織）の運営資金に活用されている（http://www.bsob-ppifukuoka.org）．

私は，この催しへの参加を通して，私が今，こうして日本で研究に打ち込んでいられる感謝と誇りの気持ちをインドネシアの子どもたちに伝えたいと思っている．

3　日本で学んだ貴重なこと

日本人は誠実で礼儀正しく，道徳にもとる行為を非常に恥じる国民である．だれが見ているわけでもなく，車なんか通らない交差点でも信号を守るし，列への割り込みもしない．このような国民性がどのような教育によって作られているかは，非常に興味深い問題である．

ほかに面白いのは，日本人の節約志向である．世界第2位の経済大国の国民でありながら，少々遠くても自転車でスーパーに向かい，割引された商品を狙って買っていく．東京などでは，少しでも安く上がるよう鉄道路線を選ぶそうである．また，何かあるごとに「ごめんなさい」と謝れば許してもらえるのも，私には珍しいことである．

テレビなどを見ていて面白いのは，日本のコメンテータの分析は，インドネシアのそれと比べてあまり鋭くないと思えることである．政治，経済ばかりか，サッカーなどのスポーツについてもそうである．ただし，日本は短期間でワールドカップに出場できるほど成長したことも事実である．

インドネシアの政治は日本のように安定しておらず，まだ多くの問題を抱えている．インドネシアが聡明な共同体になるためには，知識の詰め込みだけでなく，日本人のような謙虚な気質や人生哲学が国民全体にゆきわたらなければならないと思っている．